生徒指導・教育相談実践講座

あなたもカウンセラー

—非社会的行動をもつ児童について—

教育相談部　**阿部　貞夫・玉川　邦夫・遠藤美代子**

昨年度，「事例を通した具体的な教育相談の進め方」について個人，家族，さらに集団へのかかわり等，４回に分けて掲載してまいりました。お役に立ちましたでしょうか。

95号　校内研修に基づく不登校児への対応例
96号　家族カウンセリングについて
（＊97号　特集号につき休み）
98号　集団理解と集団指導について

本年度も，年々複雑・多様化している問題行動にどのように対応していくべきか，事例を通して考えて参りたいと思います。引き続きご高覧ください。

本号では，校内研修で「不登校」についての理解を深めながら，適切な指導援助を進めることができた小学校の事例を紹介します。

校内研修に基づく不登校児への対応例

母親からの電話

朝８時過ぎ，Ａ男の母親から受け持ちのＴ先生に電話がきた。連休明け３日目のことである。１日目の欠席では「腹痛で休ませます」と言う連絡であったが，この日の電話口から聞こえる母親の声は様子が違っていた。かなり興奮気味で，

「Ａ男が腹痛を訴えながら，『学校に行きたくない』と言い出したんです。学校で何かあったんでしょうか。こんなこと初めてなんです」

それから母親はＡ男の様子をほそぼそと話し始めた。Ｔ先生は母親の話を聞きながら，学校生活の中でのＡ男の姿を思い出そうとしたが，印象に残る姿は思い浮かばなかった。それだけＡ男は学級で目立たない静かな児童であった。

「特に学校で嫌なことはなかったと思います。クラス替えや連休の疲れが残っているのでしょう。無理をさせないでください」と言って電話を切った。

Ａ男は次の日も，その次の日も休んだ。理由は同じであった。Ｔ先生にとって初めての「不登校児」であった。

Ｓ小学校は人口１万人の小さな町の中心にある中規模校（18学級）。Ｔ先生はＳ小学校勤務２年目で，昨年は２年の担任，４月から５年を担任している。細かいことにも気を配っている熱心な先生である。また，時々面白いことを言って笑わせるので「ゆかいな先生」でも通っている。

校内研修

Ａ男が休み始めて５日が過ぎた。

そんな折り「第１回校内研修会」が開かれた。「不登校」についての理解を深め，先生方との共通理解を図ったこの会は，初めて「不登校児」を抱えたＴ先生にとって